

感染症対策と経済回復 中心市街地は経済・文化の要



正和会 川合 正彦 議員

問 コロナ禍は2年目となり感染防止と経済対策は正に諸刃の剣。年末年始に向け経済環境は厳しさを増す。ワクチン接種、行動の規制と緩和のバランスをとりまん延防止と社会活動の回復の両立を。

答 ワクチンは接種計画に沿って不足なく供給される予定。11月には接種率8割を達成見込み。経済支援では補助金等の直接補助に加え実効性のあるクーポン券等の間接補助の両面で支援を進める。

問 法人市民税の減収から企業経営の減速が危惧される。企業の経営実態を把握し、サプライチェーン全体への支援策を。

答 情報収集に努め、検討課題とする。

問 知立駅を中心とした大型事業は知立市発展の大きな足掛かり。税収基盤の強化は重要な目的。駅周辺整備事業及び西

※駅ピアノ：駅に設置された誰でも自由に弾けるピアノ

新地地区再開発事業の税収予測は。

答 概算では、前者で約4,390万円、後者で約1億170万円の税収が見込める。

問 街文化は地域創生の要。知立駅は玄関口であり、鉄道事業者との連携は不可欠。市民、駅利用者に対し、街や駅発の文化的なアプローチが必要。駅ピアノの設置につき効果を検証し協議すべきでは。

答 まちづくりに文化的な視点は必要。駅ピアノについては事例を研究する。



人権都市宣言とLGBT 害獣駆除について



民友クラブ 神谷 文明 議員

問 人権都市宣言の内容は。

答 性的マイノリティの差別や偏見、インターネットによる差別的な発言、個人情報等に係るプライバシーの侵害などを考慮した内容にしたい。

問 8月6日に行われた「高校生議会」でLGBTについて、高校生から問題提起があった。約11人に1人の割合で存在するとのことであるが、小中学校ではどのように対応しているか。

答 小中学校でLGBTについて調査したことがない。学校教育で必要なのは、一人ひとりが互いに違いを認め尊重し合い、それぞれの良さや可能性を發揮して自己実現を図ることであると考えている。

問 街路事業で34件の家屋が取り壊され、アライグマが出現し問題になっていると

聞いた。市はどの様に対応しているのか。

答 被害に遭っている市民が鳥獣捕獲許可申請を提出後、檻を市から借り捕獲し、その後は市で処分するよう伝えた。

問 アライグマには、人間にも感染する感染症を持っている。市民の安全を守るため駆除業者に捕獲を依頼し一部補助金を出す仕組みを作ってはどうか。

答 農産物の被害があるところでは補助金例がある。他の例を研究していきたい。



保育園における保護者支援と 通学路安全点検の実施状況

市政会 中島 清志 議員



問 新型コロナウイルス感染症の拡大によって園児に表れている影響は。

答 兆候は見られないが、マスクの着用により保育士の表情や口の動きがわからないため、コミュニケーションや言葉の発達等に懸念がある。

問 保育園において、保護者への育児以外の経済的な内容や、心身不調等の相談や家庭問題は専門的な支援が求められる。保育ソーシャルワーカー導入の考えは。

答 保育園毎に保育ソーシャルワーカーを配置する予定はないが、引続き庁内で横断的に保護者支援に取り組んでいく。

問 通学路緊急一斉点検の実施状況は。

答 8月に安城警察署や土木課、安心安全課、学校教育課で合同点検を実施。今後の対応については、検討している。

※保育ソーシャルワーカー：保育の現場で求められる相談支援を行う人

問 通学路点検の内、交通規制等ハード面の対策要望と、通学路危険か所を点検する安全マップの作成状況は。

答 ハード面としては、令和2年度の通学路安全対策協議会において抽出された中、道路管理者として対策する8か所について、工事4件を実施し、令和3年8月末現在で全て対策完了。ソフト面の安全マップは、各学校で作成し児童生徒等に危険か所の周知を図っている。



コロナ対策について 連続立体交差事業について

日本共産党知立市議団 佐藤 修 議員



問 知立市の感染者数は1,000人に迫る。軽症者が多い状況だが、コロナ感染症は軽症者を含め後遺症があり、若者の未来を閉ざすことがあってはならない。後遺症の相談窓口を開設して、親身な相談を。

答 保健所、保健センターで相談を受けている。悩んでいる人に届くようPRしていきたい。

問 コロナ感染拡大防止へ、いつでも、誰でも、何回でもPCR検査を受けられる社会にすべき。大手航空会社も採用の検査キットは2,300円。市で実施を。

答 毎日受けたい人が出てきた時、対応できない。

問 県などと連携し、実施すべき。

答 PCR検査がより受けやすくなるよう市長会で発言していきたい。

問 連立事業の進捗状況は。

答 事業費ベースで7割と試算している。

問 県と名鉄の工事協定に記載の工程表通りに進んでいるのか、遅れているのか。

答 工程会議で、全体の進捗は示されない。その点はなかなか言えない。

問 県市負担割合1対1が2対1になった場合、市負担軽減額は。県に要求を。

答 完成までの2か年で3億7,000万円。連立事業の負担軽減を言っていきたい。



新型コロナウイルス感染対策と 当面の諸課題



立志会 高木 千恵子 議員

問 新型コロナウイルスワクチン接種は医療従事者から高齢者へと順調に進んだが、次回ワクチン接種がある場合、接種を希望する^{*}エッセンシャルワーカーの市職員や保育士・教員など優先接種に。

答 ワクチンの供給量や状況など考慮し、優先順位を考えていく。

問 登下校の見守り活動は、学校を中心にPTA、地域住民、行政、警察、地域団体等の連携と協働が重要。現状は、高齢者ボランティアや一部の保護者に支えられているが、年々見守り活動の人員不足が問題。各小学校で毎年実施している通学路危険か所点検と同様に、見守り活動の意見交換や協議すべきでは。

答 保護者が無理なく協力できる範囲で働きかけていきたい。

※エッセンシャルワーカー：人が日常生活を送る上で、なくてはならない仕事に従事する労働者

問 駅周辺整備事業に関連する旧国道1号線北側の道路整備などの都市計画決定は平成10年。約20年前の計画であり、対象地域の住民には毎年度の事業予定など、報告と意見を聞く機会をもつべき。

答 都市計画決定で規制があり将来の都市整備の不安を除くため、進捗状況を含め、丁寧に説明していく。



こんにちは
知立市議会
です

知立市議会だより編集委員会

8月臨時会で新しいメンバーが決まりました。

市民の皆様に親しまれ、読みやすく、わかりやすい紙面づくりに努めてまいります。よろしくお願いいたします。



(左から) 石川智子 杉山千春 ○川合正彦 ◎田中 健 稲垣達雄 神谷定雄 中島清志
牛野北斗(円中) (◎委員長 ○副委員長)